

公募テーマ：実践に基づく住民参加型まちづくりの推進方策について

研究課題：中目黒における公民学連携まちづくり法人の設立および拠点運営事業計画  
～大学研究室が運営するアーバンデザインセンターNUDSからの発展～

申請者：遠藤新（工学院大学建築学部まちづくり学科）

#### ■研究の全体像

中目黒駅周辺のまちづくりを推進するために、公民学連携（区まちづくり公社、地元住民等、大学）のまちづくり団体（NUDS）を2012年に設立し活動を続けてきた。しかし、大学研究室に依存した運営と地元メンバーが固定化してきていることと、現在の活動拠点は、所有者の厚意により無料で借りているためいずれ退去しなければならないことから、大学研究室から独立し、自立的なまちづくり組織体制への転換と、開放的な活動拠点を確保し、公民学連携による持続的な中目黒のまちづくりの展開を目標に次段階の住民参加のまちづくりを実践していくための整備計画を作成することを目的としている。

#### ■H26年度研究成果

組織体制の転換は、法人の形態の検討について現在の公民学連携による任意法人（NUDS）からNPO法人化を検討したが、大学だけでは実現できない課題が判明したため、地元関係者（商工会議所目黒支部、中目黒をよくする会、等）との協議を行い、大学がこの事業を推進していくための体制を確立するためには、NPO法人に比べて少人数で設立可能であり運営が容易な、一般社団法人を選択肢として検討を行った。大学関係者で立ち上げを検討しつつ地元住民の巻き込み方が今後の課題となった。

活動拠点の確保は、当初コンテナの利用を考えていたが多額の費用がかかることが判明し、別の方策を検討することとなった。その後、地元住民関係者から児童遊園隣接地の空き店舗の空間活用計画について問い合わせがあったことから、建物の一部をフリースペース化して活動拠点に利用する案を検討することとなった。

活動拠点の整備計画づくりは、児童遊園に隣接する店舗2階をフリースペースと敷地の空地に収容可能な可動性のある拠点屋台を利用し、将来的な他敷地への展開を見据えた上で住民参加型のワークショップなどを行うこととした。活動について可動性のある屋台を拠点として様々なワークショップなどを実施することを地元提案した協議では、拠点屋台構想は実現可能性のある事業となり、屋台を利用した住民参加型のワークショップを行なうこととなった。

## ■H27年度研究成果

まちづくり活動拠点については、中目黒児童遊園に面する店舗2階にフリースペースを新設し、NUDSが児童遊園とフリースペースの一体的運営する構想について建物所有者および地元キーパーソンを含む体制で集中的に研究した。

同構想の実現を目指して、地域住民等による児童遊園利用を促すプレイスメイキング・ワークショップの実施、フリースペース活用計画のためのワークショップ等を実施するなど、当該店舗におけるフリースペースの確保とNUDSによる活用計画について多面的な検討を行った。しかしながら当該建物にフリースペースを確保することが最終的には困難となり、活動拠点のあり方については次の通り方向修正した。すなわち、これまでの研究実践活動との継続性を持ちながらも、NUDSによる中目黒まちづくりの当初理念に立ち戻り、中目黒にとっての新たな魅力発掘をすべく、まちづくり活動の拠点をひとつの建物に限定するのではなく中目黒のまちに対して広く関わりを持つスタンスを地元キーパーソンと再確認した上で、具体的には、児童遊園から続く蛇崩川緑道に着目した新たなまちづくり構想し、蛇崩川緑道そのものをNUDSによるまちづくり活動の拠点として位置付ける方向性とした。

そのための活動として、児童遊園を含む蛇崩川緑道全体の調査とまちづくり構想の作成、新たなステークホルダーの発掘と信頼関係づくり（蛇崩川緑道関係町会との意見交換やヒアリング、地元活動への参加等）等を行った。

NUDSのNPO法人化には大学だけでは実現できない課題があることと、上述のような地元関係との変化が生じたことから、活動と議論の推移を見守ることとした。

## ■H28年度研究成果

NUDSまちづくり活動の新拠点としての蛇崩川緑道まちづくりについては、蛇崩川に関する様々な調査・活動・実践を通して、新たな利用者を発掘しつつ緑道が利用者にとっての日常の居場所となることを目指したジャク・プロジェクト（Jaku-project）を立ち上げた。ジャク・プロジェクトとして地域住民を交えた意見交換、ワークショップ、社会実験を行い、コンセプトブックやHPを通じた蛇崩川の新たな認識形成と利用者発掘に取り組んだ。地元との信頼関係づくりを意図した蛇崩川緑道関係町会との交流活動も引き続き行った。緑道を活用したワークショップと社会実験は目黒区緑の公園課と調整しつつ行った。

NUDSの法人化については、3年間の研究・実践活動を踏まえ、「一般社団法人中目黒アーバンデザインスタジオ」として設立することとし、定款案を作成して法人化の諸手続を進めた。（2017年3月末日時点、提出書類に関して公証役場と調整中。）

## ■全体まとめ

本研究開始前の NUDS による中目黒まちづくりに関わる「民」は地元商工会議所関係者に限られていたが、3年間の研究を通じて商工関係者のみならず、上目黒町会、宿山町会、烏森町会、上二東町会、上四町会、地元住民らへと広がりを得た。一般社団法人化によって、NUDS の中目黒まちづくり活動は大学研究室への完全依存から切り離される形式は整った。また、NUDS の法人化によってジャク・プロジェクトの持続的な展開の足がかりが形成した。公民学の連携（目黒区・旧まちづくり公社・商工会議所・各町会・住民・大学）を基盤として実施してきた複数回の社会実験・ワークショップの実績を根底として、ジャク・プロジェクトは実践に基づく住民参加型まちづくりの更なる推進に寄与するものと考えられる。

